

長崎大学医学部の部局 LAN 紹介

医学部公衆衛生学教室

和泉 喬

E-mail: izumi@net.nagasaki-u.ac.jp

1 はじめに

医学部において最初の LAN は、平成 2 年度大学院最先端技術設備費によって各種分析機器の設置と同時に構築された。イーサケーブルにはワークステーションとして DEC Station3100、端末として MacIIci 2 台、MacSE/30 6 台、その他 MICROLINE のプリンターなどが接続されて、共同実験施設医学情報処理室として発足し、運用開始は平成 3 年の 9 月であった。当時、イーサケーブルは各講座がある 2 階から 8 階まで、垂直に一本通していたが、そのころは、現在ほど各講座に Mac や WS などは余り普及していなかったし、高価であったポストスクリプトプリンタなどもほとんど持っていなかったため、実際にケーブルに接続された機器は前述の機器のみで、ほとんど 4 階の情報処理室に設置されていた。それでも、Apple Talk による Mac の利用や特にポストスクリプトプリンタは重宝がられたものである。その後、全学でのキャンパス情報ネットワーク構想が持ち上がり、現在の部局 LAN ができあがったのは本年(平成 6 年)4 月である。

2 規模

現在の医学部の LAN は前述の医学情報処理室のイーサケーブルも接続された形でキャンパス情報ネットワーク構想の一環として構築されている。規模としては、医学部基礎棟、医学部附属原爆後障害医療研究施設(原研)、医学部附属原爆被災学術資料センター(資料センター)、医学部附属動物実験施設、図書館医学分館に合計 5 本のイーサケーブルが張り巡らされ、HUB 数も基礎棟に 16(うちキャンパス情報ネットワーク工事では 13)、原研 6、資料センター 5、動物実験施設 1、図書館 1 となっている。

3 利用の現状・特徴

これら LAN に接続されているコンピュータ(Mac, PC, WS)の数はかなりの数に昇り、平成 6 年 12 月現在 50 台を越えており、実際の IP アドレスの発行数は 52 で(すべて接続しているかどうかは不明)、多くの人達は図書館に設置された MEDLINE による文献検索に利用している。更に一部にはメールやニュース、WWW などの Internet サービスも利用していると思われる。特にこれまでモデムなどを利用して genebase 等のような学外のデータベースにアクセスしていたものにとって、今回の LAN 設置は朗報であった。(電話料金

がいらなくなる，スピードがあがるなど)

4 管理体制

現在，医学部での IP アドレスの発行などはネットワーク調整委員である公衆衛生学教室の和泉が行っているが，管理(運営)組織などは存在しない．今後管理組織を作り，円滑な運用が図られるよう人的資源を整備する必要があると思われる．特に，医学部にはネットワーク管理に精通している人材に乏しく，全学での支援体制の強化または(総合情報処理センターにおんぶにだっこではなく)しかるべきポストに専属の者の存在が望まれる．

5 今後の計画や要望

1. 今年，学生実習棟が新築され，その中に視聴覚セミナー室が設置されたが，この室内にも LAN を敷設することが計画されており，今年度予算での敷設が検討されている．当面は，数台の Mac とプリンタを設置するが，LAN が敷設され，端末数が増えれば，医学部学生の情報処理教育などへの利用も可能である．
2. 医学部学生が自由にメールやニュース等の先端情報システムを自由に操作出来るように教育するため，端末数やサーバー用のハードウェアの増強，ソフトウェア等の整備が必要とされる．現在全学教育の一環として医学部 1 年生には情報処理概論および演習が必修科目として課せられているが，2 年生以上はそういった授業を受けておらず，学部での情報処理教育が必要となってくる．
3. 今まででは本学は主に情報の受け手としか機能していなかったが，今後情報を発信する可能性もあり，そのためのハードウェア・ソフトウェアの研究，整備，各部局間の連携が望まれる．
4. 医学部においても情報発信基地としての役割を果たす必要があると思うので，今年中にも web のサーバーを立ちあげたい．

6 おわりに

医学部に LAN が設置されてたった 3 年しかないうちに，ネットワークの世界はまさに長足の進歩を遂げてきた．初期の LAN 設置当時は高価な機器の共有化を目指していたが，気がつくと PC や WS の低価格化とともに情報ハイウェイ構想など高度情報化社会に突入してしまっていた．コンピュータの世界は一寸気を緩めるとすぐ浦島太郎になってしまうということがこの頃の実感である．今後の医学教育にも画像をふんだんに取り入れた情報教育が必須になると思われ，ますます情報の波に吞まれそうである．